

# 国際日本文化研究センターにおける 日本研究資料の収集と提供

国際日本文化研究センター（以下、日文研）が収集及び提供する資料・情報は、国内外の日本文化研究とその研究活動の動向に関する文献資料等で、日文研における活動の進展に対応しながら、また日本文化研究に不可欠な基本的資料を探し求めながら資料・情報等を収集している。

このようにして収集した資料・情報を整理、蓄積・保管して、国内外の研究者・研究機関へ提供を行う情報センター的役割を果たしている。

日文研が提供する情報は、（１）研究サービス機能としてセンターの研究者が内外の研究者の要請に応じ提供するものと、（２）情報管理施設が組織として提供するものとがある。

## 1. 収集する主な資料

### (a) 外国語で書かれた日本研究図書

～ 外国人による日本観察記録ならびに日本研究書 ～

日文研ではこの種類の図書を外書（がいしょ）と呼んでいる。当初は英語など主にヨーロッパの諸言語で書かれたものを中心に集めていたが、近年中国語、韓国語で書かれたものへと、アジア圏にもその収集対象の範囲を広げている。

その図書に描かれている挿絵類を外像（がいぞう）と呼び、データベース化する事業を続けている。

現在、約49,000冊で、図書館蔵書の特色のひとつとして内外から高い評価を得ている。

平成9（1997）年度に、創立10周年を記念して、収集資料のうちから1900年以前に刊行された欧文図書から善本、1,057点を選び目次レベルの情報と画像資料をも取り込んだ詳細な所蔵目録（「日本関係欧文図書目録」全3分冊及び索引）を刊行した。

上記目録の内容を収録したデータベースが公開される見込みである。

### (b) 日本研究に必要な基本図書・雑誌

国内外を問わず、日本研究を行う上で必要となる図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集している。

原本の入手が困難な資料については、復刻版やマイクロ版で集めている。

**(c) 日本研究関連文献目録、索引など**

参考図書として充実に努めている。

**(d) 海外における日本研究者・研究機関に関する情報**

**(e) 日本研究関連の映像・音響資料など**

映画、地方に伝わる行事などを収めたビデオテープ、CD、DVDなど  
古写真

**(f) 海外へ流出した日本研究の基礎的資料**

「文化資料企画室」が中心になって、海外の図書館等が所持している貴重な資料(浮世絵など)のデジタル化事業へ協力し公開利用に貢献している。

プランゲ文庫 雑誌コレクション、新聞コレクション

・現在、日本国内で 雑誌コレクション の全点を所蔵し、一般の利用に供している情報サービス機関は、国立国会図書館と日文研の2箇所。

・新聞コレクション は、今年から3ヶ年計画で全点を揃える。

・メリーランド大学 <http://www.lib.umd.edu/prange/index.js>

・文生書院 <http://www.bunsei.co.jp/index.htm>

・20世紀メディア研究所 <http://www8.ocn.ne.jp/~m20th/>

## 2. 収集方針

**(a) 研究の素材になる情報を優先**

日本研究、日本文化研究に関する「研究成果」としての出版物は、研究者個々人の研究テーマとその研究活動の必要性に即して収集されるが、情報管理施設が主体的に収集する資料の対象には、「研究成果」をアウトプットするものになる「研究の素材」となる出版物に注目している。

その結果、「研究成果」の出版物の所蔵量は不足するが、所内からのニーズに対しては、日文研が加盟している国立大学図書館協会の図書館相互利用制度を活用して、文献複写や文献資料自体の相互貸借によってその求めに応じている。

**(b) 幅広い主題分野の日本研究文献を収集**

歴史、文学はもとより自然科学分野をも含む日本研究とそれに関連する文献類の多方面にわたる収集に努めており、絵図、古写真などをはじめ、マイクロ化された大量のコレクションを集めている。特にマイクロ資料は、入手困難な出版物の代替物としての収集にとどまらず、書庫に収めきれない膨大な量の図書収集に匹敵するものとして重視している。

美術品、芸術作品などの作品自体の収集は困難なので、それに代わる美術全集などの収集に力を注いでいる。また、日文研創立時に遡及的な収集が困難であった逐次刊行物については復刻版の刊行に注意を払い、可能な限り網羅的なコレクションに成長するよう努めている。

**(c) 多様なメディアを収集**

印刷物の収集量が圧倒的に多いが、映像、音響などを収録したテープやCDなども積極的に集めている。

**(d) 印刷物と電子メディアの関係**

最近では印刷物のデジタル版や商用オンライン・データベースなど、デジタル情報利用へのニーズが高まりつつあり、今後これらの導入は増加するものと思われる。

百科事典や辞典など、データベースで提供される内容が最新版へ更新されるとき、旧版の利用ができなくなる可能性のある資料については、データベース料金を支払い利用しつつも、将来への備えとして印刷物の収集を継続することとしている。

**(e) 1書誌1冊の原則**